



第5分団、第3分団V 県消防協会猪苗代支部消防操法大会

平成27年度県消防協会猪苗代支部消防操法大会は7月5日、町水防センター駐車場で開かれ、選手たちが日頃の練習の成果を披露しました。猪苗代、磐梯両町の消防団が分団ごとにチームを編成して出場。規律、消防ポンプ操作の正確性、動作のスピードなどを競い合いました。主な成績は下記の通りです。

【ポンプ車操法の部】

①第5分団②第6分団③第4分団
最優秀選手 指揮者＝鈴木一史(第5分団)、1番員＝高梨宏和(同)、2番員＝相馬裕也(第3分団)、3番員＝鈴木貴士(第5分団)、4番員＝佐藤昭裕(同)

【小型ポンプ操法の部】

①第3分団②第6分団③第5分団
最優秀選手 指揮者＝阿部哲平(第5分団)、1番員＝新田真義(第3分団)、2番員＝上野和磨(磐梯町消防団第3分団)、3番員＝鈴木武秀(第3分団)

1月以上、ほぼ毎日練習に励んできた成果を披露する選手たちの表情は、真剣そのもの【町ホームページでスライドショーが見られます】



小型ポンプ操法の部優勝の第3分団



ポンプ車操法の部を制した第5分団

「水質日本一の湖に戻したい」

東中1年生が猪苗代湖で清掃活動

東中の1年生29人は6月25日、郷土学習の一環として猪苗代湖の天神浜で清掃活動に取り組みました。生徒たちは、湖岸を歩いてたばこの吸い殻や木の枝を拾ったり、ひざの上ほどまで湖に入り、水の中からペットボトルやビニール袋をすくい上げたりして熱心にごみを拾い集めました。吉田直大さんと六角光生さんは「もっとごみを拾って、水質日本一の湖に戻したい」と清掃活動に汗を流していました。



湖岸や湖の中のごみを熱心に拾う生徒たち



左はサエボーグさんの作品。館内には約30点の作品が並ぶ

人間と動物の関係を見つめ直す

はじまりの美術館の企画展「のけものアニマル」

町内新町にある、はじまりの美術館では企画展「のけものアニマルーきみといきる。」が開催されています。動物をテーマにした作品や関連イベントを通し、身近な動物についてあらためて考え、自分たちの暮らしを見つめ直すきっかけにしてもらおうと開催。館内には6人の作家による作品約30点が展示されています。会期は10月4日まで、開館時間は午前10時から午後6時までです(火曜日休館)。※毎月18日は猪苗代町民無料デーです。



「こんなにきれいに食べたよ」



「とっても甘くておいしい!」



「いただきまーす!」スイカにかぶりつく猪苗代小1年1組の児童

八街のスイカおいしいね

町内の児童・生徒にうれしい贈り物

千葉県八街市の「被災地支援八街市民の会」は7月7日、町内の児童・生徒に食べてもらおうと、町にスイカ30玉を寄贈しました。

同会は、東日本大震災の復興支援として、被災地の児童や生徒に八街市特産の農産物を食べて勇気や元気を取り戻してほしいと、震災のあった平成23年から被災地に農産物を送る活動を続けています。

贈られたスイカは町内の全小、中学校に配られ、子どもたちが給食のデザートとして夏の味覚を楽しみました。

このうち猪苗代小では7月10日に振る舞われ、児童が「甘くてめっちゃおいしい」「ことし初めて食べる」などと、赤い部分がなくなるまで夢中になってスイカにかぶりついていました。

「被災地支援八街市民の会」では、この支援活動がきっかけとなり、被災地の児童・生徒と八街市の児童・生徒との交流が進むことを期待していると話しています。

乗車マナー向上を呼び掛ける

猪苗代高がJR猪苗代駅で啓発活動

猪苗代高の生徒会とJRC委員会は7月7日、JR猪苗代駅などで「思いやりキャンペーン」を実施しました。活動に参加した15人の生徒は、同校からごみを拾いながら駅へと移動。駅に到着すると、ホームで横断幕を掲げて啓発ティッシュを乗客に配り、マナーの向上を呼び掛けました。生徒会長の渋谷徳之さん(3年)は「この活動によって乗車マナーが向上し、お年寄りへの席の譲り合いなどが少しでも増えればうれしい」と話しました。



手作りの横断幕を掲げて啓発ティッシュを配る生徒

中島康輔さんが柔道で福島を制す

小学生学年別柔道県予選会で優勝、全国大会へ

第12回全国小学生学年別柔道大会福島予選会は6月21日、いわき市の南部アリーナで開かれ、猪苗代少年柔道会の中島康輔さん(猪苗代小5年)が5年生男子45kg超級で優勝を果たしました。8月30日に山梨県で開かれる全国大会への切符を手にした中島さんは「県大会で初めて優勝することができて、うれしい一言です。全国大会では、まず1勝を目標に自分のベストを尽くしたいです」と力強く抱負を語りました。



県大会を制し、全国大会出場を決めた中島さん



パパ、ママ、お兄ちゃんと一緒に「ハイ、チーズ」

「彩りのある、明るい人生を送ってほしい」。彩乃ちゃんの名前には、パパとママのそんな願いが込められています。

古川 彩乃 ちゃん

平成 26 年 12 月生まれ
～相名目
裕介さん・奈津子さん夫婦の長女

離乳食をモリモリ食べて、すくすく成長中の彩乃ちゃん。「食欲が旺盛で、ごはんを食べ終わると、もつと食べたいと泣くこともしょっちゅうです」とママの奈津子さんは笑いながら話します。食事の時以外はほとんど泣くこともなく、いつもニコニコの彩乃ちゃん。お兄ちゃんの修雅くんはそんな妹がかわいくて仕方ないらしく、彩乃ちゃんにはほほ笑みかけたり、ベビークラックを揺らして喜ばせたりしているのだとか。

「最近、歯が2本生えてきたんです。お座りも長い間できるようになりました」と彩乃ちゃんの成長について話す奈津子さんは、「もう少し大きくなったら、みんなで動物園に行ってみたいですね」と笑顔で話しました。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出てください。

☎(62) 2111



五色沼を訪れた、ミクロネシアの子どもたちとホストファミリー



ミクロネシアの子どもたちと交流を深めた小坂橋栄子さん(左から2人目)、夏子さん(同3人目)親子



休み時間にミクロネシアの子どもからバスケットボールを教わる猪苗代小の児童

ホームステイなどで交流 ミクロネシアの子どもたちが町を訪問

6月19日から21日にかけて、ミクロネシアの子どもたちが本町を訪れ、学校訪問やホームステイなどを通して町民と交流を深めました。

同国の子どもたちは19日、猪苗代小を訪問。同校の児童と一緒に竹馬やけん玉など、日本ならではの遊びやバスケットボールを楽しみ、交流を図りました。

20日から21日にかけては、町内などの家庭に宿泊。21日にはホストファミリーたちと一緒に五色沼を散策するなどし、親睦を深めました。

1泊2日のホームステイでしたが、お別れパーティーではミクロネシアの子どもたちがホストファミリーと抱き合ったり、写真を撮り合ったりして、最後まで別れを惜しんでいました。

ホストファミリーの小坂橋栄子さん、夏子さん親子(見称)は「食べ物の好みなどが分からず戸惑うこともあったけど、一緒に遊べて楽しかった。あっという間に2日間が過ぎてしまいました」と話しました。



大竹さんの話を熱心に聞く八千代地区高齢者サロン「オメ・げんき会」の皆さん

猪苗代消防署では、救急車を正しく利用してもらい、より多くの命を救うことを目的に「救急車適正利用講習会」を実施しています。

7月13日には、八千代地区の高齢者サロン「オメ・げんき会」に署員が出向いて講習会を実施。同署の救急救命士、大竹裕一さんが「正しく使って命を守る」をテーマに、どのような場合に救急車を呼ぶべきなのか、高齢者や子どもをさまざまな事故から守るにはどうしたらいいのかなど、身近な事故を防ぐ方法などについて説明しました。

より多くの命救うため

猪苗代消防署
「救急車適正利用講座」実施中

※猪苗代消防署では、ご希望に応じて出前講座を実施します。署内でも実施しています。お気軽にお問い合わせください。

☎(62) 4433

サロンの皆さんは、自分や家族の命に直接かかわる話とあって、大竹さんの説明に真剣に耳を傾けていました。

講習会に参加した鈴木愛子さんと安齋岩子さんは「とても分かりやすく、ためになった。たくさんの方にこの講座を受けてもらいたい」と話しました。



説明する大竹さん(右)。猪苗代署管内の救急出動件数のうち、約半数が軽症とのこと

町食改が県連絡協議会表彰

星会長らが前後町長に受賞を報告

町食生活改善推進員会はこのほど、県食生活改善推進連絡協議会の表彰を受けました。これは、同会の長年にわたる活動の功績が認められたものです。同会の星久子会長、高橋洋子副会長と藤倉和子副会長は7月22日、町役場を訪れ、前後町長に受賞を報告。星会長は「これは先輩方や会員の皆さんなど、みんなで頂いた賞。今後もみんなで協力しあって、町民の皆さんの健康づくりやイベントなどに役立てるよう頑張りたい」と話しました。



左から前後町長、星会長、高橋副会長、藤倉副会長

長瀬小が県大会で3位に 交通安全子供自転車県大会

交通安全子供自転車県大会は7月4日、福島市のあづま総合体育館で開かれ、猪苗代地区大会と会津大会を制して出場した長瀬小が団体の部で3位、個人の部では長嶺歩美さん(6年)が優勝するなど、日頃の練習の成果を十分に発揮しました。長嶺さんは「目標だった団体での県大会優勝はできなかったけど、みんなと一緒に競技することができて楽しかったです。来年は、優勝してもらいたい」と後輩にエールを贈りました。



県大会で3位入賞の活躍を見せた長瀬小チーム